山口市域の角筆文献

小林芳規
柚木靖史

目次

一、全体概要と調査経過　小林芳規
二、国語史料としての価値　柚木靖史
三、特に、蘇悉地羯羅供養法平安中期角筆点について　藤田夏紀
[附載]
山口市域の角筆文献一覧（所蔵別）　豊田尚子　岡野幸夫

一、全体概要と調査経過

此の度、山口市域の図書館及び寺院経蔵から百二十二点、計五百三十二冊の角筆文献が発見せられた。その所蔵者と点数・冊数とは次のようである。

山口大学附属図書館蔵本	50点	232冊
山口県立山口図書館蔵本	59点	242冊
禅昌寺蔵本	8点	53冊
乗福寺蔵本	4点	4冊
龍蔵寺蔵本	1点	1巻

その大部分は江戸時代の木版本や墨書写本であり、その漢文の本文の字句を読解するに当って、注解や訓点の仮名や漢字等を、行間や上欄外などの空白部に、角筆を以て紙面を凹ませて書入れたものである。中には墨書の絵の下書きに角筆の線を用いたものもある。

此の度発見した角筆文献のうち、特筆すべきものに、龍蔵寺蔵の平安中期十世紀前半期に書写した蘇悉地羯羅供養法巻上一巻もある。その経文を読解した結果を訓点として経本文に直接に書入れているが、その訓点が角筆で紙面を凹ませて施されている。訓点の仮名字体や加点状況から見て、寛平法皇の加点に擬定せられるものであり、注目せられる新資料である。

角筆文献とは、角筆という古代の筆記具で紙面を凹ませて文字や絵などを書いた古文献をいう。近年発見され始めた新しい文献群である。

角筆は、箸一本の形で長さは二十四糎余を基準とする。象牙又は竹又は木で作り、一方の先端を削りとがらせ、この先端を古代紙の紙面に押しあて紙を凹ませることによって、文字や絵を書いた。角筆の遺物として、今日までに次の五種が発見されている。[1]

象牙製角筆	一管	三重県桑名市鎮国守国神社蔵
竹製角筆	一管	東京国立博物館蔵
木製角筆	一管	広島県三原市御調八幡宮蔵
竹製角筆	十一管	京都大覚寺蔵
竹製角筆	二管	東山御文庫蔵

これらは、いずれもその先端が使い古されていて、紙面を押し凹ませて文字などを書いたことをうかがわせる。中でも、御調八幡宮の木製角筆と大覚寺蔵の竹製角筆は、先端が割れてブラシ状に立ち上り、その隙間に古代紙の繊維を多数付着させていたことが顕微鏡で判明し、古代の筆記具であったことが証明された。江戸時代の学者は、「漢籍の句読を人に授ける際に、書中の字を指すのに用いるもの」と大方が説き、「字さし」「字突」の俗称まで作り出していた。角筆文献の存在そのものにも全く気付かなかったようである。

角筆文献は、三十年前の昭和三十六年に第一号（高野山大明王院蔵の漢書周勃列伝、平安中期十世紀の書入れ）が発見されて以来、平成四年二月末の現在までに全国から六百六十三点が発見されている。

紙本で最も古いのは、奈良時代の正倉院文書（天平勝宝元年、藤原仲麻呂牒）であり、最も新しいのは明治十一年刊の木版木「劉向列女伝」（広島大学附属図書館蔵）であって、この間の平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代にわたっている。

木簡の板面を凹ませて書いた文献もあり、木簡では奈良時代の平城京出土だけでなく、溯って藤原宮から出土した木簡にも、角筆の文字の書入れ迹がある。中国大陸では、二千年前の漢代の木簡に角筆の書入れを発見し、角筆の源が中国大陸にあることが分った。

国外では、中国の他、ネパール出土のチベット経典（紙本）にチベット文字を角筆で書入れた文献も、近時、発見された。チベット文化圏でも角筆の使われたことが知られる。

角筆で書かれた文献の内容は、わが国の現存する角筆文献について

見ると、漢文の訓点として書き込まれたものが多いが、それ以外の内容の文献も次々と発見されている。『伊勢物語』の鎌倉時代の古写本に、その注釈などを口頭語で行間に角筆で書入れたもの、紙背の白紙に十行程の漢文の文章を書いたもの（これは一見して白紙に映る）、角筆で書いた鎌倉時代の手紙、鎌倉時代の片仮名交り文、宋版（思渓版）『大般若経』の五百二十七帖にわたって、表紙や本文中の余白などに、角筆で鎌倉時代の年月日、北九州の寺社名、その関係僧名（五十数名）、その時々の感慨の文言、連歌資料や三百帖を越える各種の絵など多数を書入れたものなど、多種多様である。

わが国における角筆の使用地は、京都や奈良の古代文化の中心地は言うまでもなく、北は青森県弘前市（市立図書館蔵稽古館版）から南は九州の佐賀県（岩蔵寺蔵宋版大般若経など）にわたり、日本の各地に及んでいる。角筆が、古代の筆記具として、毛筆と共に全国的に使われたことを考えさせる。

此の度、山口市域から大量に発見せられた角筆文献は、それらの文献が山口在の文人達に読解され利用されたものであることから見て、山口でも角筆が広く使われたことを窺わせるものであり、角筆が地方でも広く使われたことの一証になるものである。

山口県における角筆文献の存在は、既に萩市立図書館蔵の四十七点、二百二十冊と、宇部市恒石八幡宮蔵の角筆下絵の『八幡大菩薩御縁起』絵巻二巻の発見で知られている[2]。萩市立図書館の角筆文献は平成二年二月の調査、恒石八幡宮の角筆下絵は平成元年十一月の調査で発見・確認したものである。特に、萩市立図書館蔵の角筆文献には、萩藩が藩校の教科書として作成出版した明倫館版が認められた。この明倫館版は、萩市立図書館の他にも、山口大学附属図書館、山口県立図書館、他の山口県下の諸所に分蔵されている[3]。

そこで、筆者（小林）は、これらの明倫館版に角筆の書入れがあることを予想し、それらを調査し角筆の文字の有無を確認する機を得たいと願っていた。その試行として、所用で山口市内の美術館に赴いた折、山口県立図書館に立寄り、その蔵書の若干を見せて頂いた。時に平成三年二月六日であった。所用の間の僅かな時間であったために、調べたのは七点だけであったが、その中から二点計十六冊の角筆文献を発見することが出来た。

これが切掛けとなって、同三年夏八月から平成四年二月にわたって本格的な角筆文献調査が始まった。山口大学附属図書館においては、同図書館の御許可と吉田秀紀課長、安田浩規係長はじめ関係各位の御厚情を得て、貴重書庫内の木版本・写本の総てについて一冊一冊、一頁一頁を点検して角筆による書入れの有無を調べた。又、山口県立山口図書館においても同図書館の御許可と樹下明紀参考課長はじめ関係各位の御世話を得て、書庫内の木版本と写本の総てについて一冊一冊、一頁毎の点検をして角筆の書入れの有無を調べた。一方、市内の寺院の経蔵書の調査も行い、下小鯖の禅昌寺、大内御堀の乗福寺、吉敷の龍蔵寺、黒川の広沢寺の蔵書について角筆の書入れの有無を調べ、次掲のような角筆文献を発見した。この調査に参加したのは、小林の指導のもと、広島大学文学部国語学国文学研究室の大学院生及び学部生で、左の諸君である。

大学院生　柚木靖史・栗竹民・豊田尚子・藤田夏紀・岩川直子・岡野幸夫

学部学生　三宅且晃・小田明子・山田千鶴・岩城裕之・白井大介（上の二名は教育学部学生）

調査には、柚木靖史君が中心になって事に当った。具体的な、調査日程と調査図書館・寺院、及び調査参加者、並びに角筆文献の発見状況は、次の通りである。

○第一回　平成三年八月二十日より八月二十二日まで
［調査図書館］山口大学附属図書館・山口県立山口図書館
［調査者］　柚木靖史、豊田尚子、藤田夏紀、岡野幸夫
［発見点数］　山口大学附属図書館より30点、山口県立山口図書館より45点

○第二回　平成三年九月二十一日
［調査寺院］　乗福寺
［調査者］　柚木靖史、栾竹民、岡野幸夫
［発見点数］　4点（いずれも写本）

○第三回　平成三年九月二十五日
［調査寺院］　禅昌寺
［調査者］　柚木靖史、岩川直子
［発見点数］　6点

○第四回　平成三年九月二十七日
［調査寺院］　龍蔵寺
［調査者］　柚木靖史、三宅且晃
［発見点数］　1点（蘇悉地羯羅供養法）

○第五回　平成三年十月三日より十月五日まで
［調査図書館・寺院］山口大学附属図書館、山口県立山口図書館、龍蔵寺
［調査者］　小林芳規、柚木靖史、豊田尚子、岡野幸夫
［発見点数］　追調査により、山口大学附属図書館より20点、山口県立山口図書館より8点を新たに発見

○第六回　平成三年十一月九日
［調査寺院］　広沢寺
［調査者］　柚木靖史、小田明子
［調査内容］　応永書写大般若経の調査、角筆の書入れを認めず。

○第七回　平成三年十二月四日
［調査図書館］山口大学附属図書館
［調査者］　柚木靖史
［調査内容］　追調査

○第八回　平成三年十二月八日
［調査図書館］山口県立山口図書館
［調査者］　柚木靖史
［調査内容］　追調査

○第九回　平成三年十二月九日
［調査図書館］山口大学附属図書館
［調査者］　柚木靖史
［調査内容］　追調査

○第十回　平成三年十二月十一日
［調査寺院］　禅昌寺
［調査者］　柚木靖史、岩城裕之
［発見点数］　追調査により、2点を新たに発見

○第十一回　平成三年十二月十五日より十六日まで
［調査図書館］山口大学附属図書館、山口県立山口図書館
［調査者］　柚木靖史、三宅且晃、山田千鶴、白井大介
［発見点数］　追調査。山口県立山口図書館より1点を新たに発見

○第十二回　平成四年一月八日
［調査図書館］山口大学附属図書館
［調査者］　柚木靖史、岡野幸夫
［調査内容］　追調査

○第十三回　平成四年一月十三日
［調査寺院］　龍蔵寺
［調査者］　柚木靖史、豊田尚子

［調査内容］　追調査

○第十四回　平成四年一月二十日より二十四日まで

［調査寺院等］龍蔵寺（一月二十日、二十一日）、山口大学附属図書館（一月二十二日より二十四日）

［調査者］　柚木靖史、豊田尚子

［調査内容］　追調査

○第十五回　平成四年一月二十七日より二十九日まで

［調査寺院等］禅昌寺（一月二十七日）

山口県立山口図書館（一月二十八日、二十九日）

［調査者］　柚木靖史、岩川直子、豊田尚子、藤田夏紀（二十八日、二十九日参加）

［調査内容］　追調査

○第十六回　平成四年二月一日より三日まで

［調査図書館］山口県立山口図書館（一日、二日）

山口大学附属図書館（三日）

［調査者］　柚木靖史、豊田尚子

［発見点数］　追調査。山口県立山口図書館より1点を新たに発見

○第十七回　平成四年二月五日

［調査寺院］　龍蔵寺

［調査者］　小林芳規、柚木靖史、豊田尚子

［調査内容］　追調査

○第十八回　平成四年二月十九日より二十日まで

［調査寺院等］山口県立山口図書館、乗福寺

［調査者］　柚木靖史、豊田尚子

［発見点数］　追調査。山口県立山口図書館より2点を新たに発見

右のような調査の結果、先に述べたような百二十二点、計五百三十二冊の角筆文献が見出されることになった。

二、国語史料としての価値

山口市域から発見された角筆文献について、ここでは国語史の研究資料としての視点を中心に、所蔵別に眺めることにする。

一、山口大学附属図書館蔵本

先に述べたように、山口大学附属図書館の蔵書の中から、角筆文献が五十点、計二百三十二冊という大量に発見された。いずれも江戸時代の木版本で、その漢文本文の漢字句を訓読したり注解したりするために、その行間や上欄外などの白紙部分に角筆で紙面を凹ませて、仮名や漢字などを書入れたものである。その蔵書の内訳は、

毛利就挙公寄贈書　八点、計四十九冊

「周防国明倫館図書印」のあるもの　六点、計二十八冊

「明倫館印」のあるもの　十点、計八十六冊

山根信太郎氏寄贈書　十八点、計三十八冊

景山家文書　三点、計十四冊

その他　五点、計二十八冊

のようである。毛利就挙公寄贈書が毛利家に伝来のものであることは言うまでもなく、「周防国明倫館図書印」を持つ蔵書は、山口明倫館に伝わったものであり、「明倫館印」のあるものも山口に係るものである。又、山根信太郎氏寄贈書には、次のような山口に係ることを示す墨書がある。

「萩河添中千志賀姓」「志賀蔵書」（18校正小学、文政十二年刊）

「本町山根義亮什物」（21改正音訓易経再刻後藤点、江戸後期刊）

「萩河添本丁山根什物」（26詩経、江戸後期刊）

景山家文書にも、次の朱書がある。

「山口県豊浦郡吉見村士族／林直聿」（19論語、江戸初期刊、20中庸章句、江戸中期刊）

これらの朱・墨書の書入れには明治時代になって書入れたものもあるが、これらの書物が、山口の関係者の間に伝来されたことを示すものであり、従って、角筆も山口で使用され、角筆の文字もそこで書入れられたことが考えられる。特に、墨書の書入れが角筆の文字の上から重書されている所では、そのことから確かめられる。その墨書には、次のように、書入れの年時を記したものもある。

「文政丙戌秋九月　男延光謹書」（1皇朝史略、江戸後期刊、2皇朝史略、江戸後期刊）

「正月吉旦三戸姓」「三戸什物」（15孝経大義、江戸中期刊）

「松林山蔵書／文化丙寅歳求之」（33改正音訓易経後藤点、江戸後期刊）

「天保十二年辛丑初春再刻」（39改正音訓易経、書経、禮記、春秋改点、江戸後期刊）

山口大学附属図書館蔵の角筆文献の五十点は、漢籍が四十五点、国書が五点である。漢籍は、寛文四年（一六六四）刊の「首書春秋集註」をはじめ明治三年（一八七〇）再刻の「十八史略」まで、易経・書経・詩経・春秋左氏伝・禮記・論語・孝経大義・孝経新註・大学・中庸・史記論文・漢書評林・後漢書・宋名臣言行録・資治通鑑・孟子・文選六臣註・文選正文・古文真宝後集・近思録・小学・蒙求等に広くわたっている。国書は、皇朝史略・日本外史補・皇朝戦略編・赤穂四十七士伝であるが、この種の国書に角筆の書入れが認められたのは初めてである。

角筆の文字は、墨書や朱書と異なって色が無く凹みであるから目に付き難く、その上、長い年月の間に凹みも薄くなっているので、一層読解することが難しい。このために、これらの角筆文献もその存在が今まで気付かれずに今日に至ったものと思われる。

今回の調査で読解することが出来た角筆の文字について、学術上、特に国語学の上からその資料価値について若干述べてみる。

角筆の文字は、凹みであるから目立ちにくく目に訴えることが弱い。従ってメモに適する。あくまでも一時的であって将来にわたって長く保存されることも意図されず、私的である。毛筆の文字が表記規範に強く拘束されるのに対して、その規範の埒外の現象が表われ易い。山口大学附属図書館の角筆文献についても同断である。表記面でいえば、当時、漢文の訓点には片仮名を用いるのが墨書（訓点附刻木版も同じ）の場合の伝統的な規範であるが、角筆の訓点の仮名では、それに反して、次のように平仮名を使い、片仮名と交え用いているものがある。

「仁（ひと）」「興（をこる）」（12寛政新刻論語道春点、寛政年間刊）

「不レ于レ経」の上欄「つねにをいてせ」（27新刻改正大学再刻後藤点、江戸後期刊）

音韻や語彙の面では、当時の訛った発音や口頭語を反映したと見られるものが認められる。これも角筆の文字の特性の現れである。

毛利就挙公の寄贈書からは、次のような事象を見る。

1、オ段長音・オ段拗長音を短呼する

醸郁（「ノ」は右傍の角筆文字）（46古文真宝後集、江戸中期刊）

揺揺（「ヨ」は上欄の角筆文字）（46同右）

冢宰（「チョ」は左右傍の角筆文字）（43論語、江戸初期刊）

2、「ヱイ」（エー）、「セイ」（セー）等の短呼

翳翳（「ヱ」は上欄の角筆文字）（46古文真宝後集、江戸中期刊）

災青（「サイセ」は上欄の角筆文字）（46同右）

鉼罌（「ヘ」は右傍の角筆文字）（46同右）

3、長音化

莫邪（「シャウ」は上欄の角筆文字）（46同右）

4、「ナニシカ」の使用

「焉求」の上欄に角筆文字「ナニシカ」（46同右）

「焉」は「イヅクンゾ」「ナンゾ」「イカンゾ」（観智院本類聚名義抄）

と訓まれるのが普通であるが、角筆では「ナニシカ」としている。「ナニシカ」は延慶本平家物語では会話文に用いられ、音転して「ナジカ（ハ）」となる。類義語の「ナニシニ」が平安時代・鎌倉時代の文献では会話文に用いられ、当時の口頭語と考えられることは指摘した所である。[1]

明倫館・山口明倫館旧蔵書や山根信太郎氏寄贈書・景山家文書の角筆の書入れは、江戸後期のものが主であるが、同じような事象が見られる。

1、オ段長音の短呼
　荘子（「ソシ」は右傍の角筆文字）（19論語、江戸初期刊）
　寇（「コ」は右傍の角筆文字）（22易経 再刻後藤点、江戸後期刊）
　郊社（「コシヤ」は右傍の角筆文字）（40中庸 後藤点、江戸後期刊）
　服膺（「ヨ」は右傍の角筆文字）（40同右）

2、「エ段音＋イ」の長音化
　審兪（「ネエユウ」は右傍の角筆文字）（34春秋集註、江戸中期刊）
　審殖（「ネエショク」は右傍の角筆文字）（34同右）
　嬰斉（「エ、」は右傍の角筆文字）（34同右）
　濂渓（「ケヘ」は右傍の角筆文字）（17近思録、寛文十三年刊）

3、オ段拗長音をūに発音
　大匠（「シウ」は右傍の角筆文字）（17同右）

4、合拗音
　計画（「カク」は上欄の角筆文字）（10皇朝戦略編、安政三年刊）
　槐里（「カイ」は右傍の角筆文字）（30十八史略、天保十年刊）
　右は合拗音「クワ」の直音化した例であるが、合拗音の表記もある。
　果敢（「クワカン」は右傍の角筆文字）（19論語、江戸初期刊）
　桓公（「クハン」は右傍の角筆文字）（34春秋集註、江戸中期刊）

5、母音eとiの交替
　遮（「サイキリ」は右傍の角筆文字）（30十八史略、天保十年刊）

6、「ヒ」を「シ」と発音
　牝牛（「シ」は右傍の角筆文字）（22易経 再刻後藤点、江戸後期刊）

7、拗音「シュ」を「シ」と発音
　須臾（「シ」は右傍の角筆文字）（11文選六臣註巻十七、江戸中期刊）

8、「セ」を「シ」と訛る
　沈潛（「チンシン」は右傍の角筆文字）（20中庸章句、江戸中期刊）

9、下一段活用動詞
　「聳」の上欄に角筆文字「ソビエル」（8韋注国語、天明六年刊）

10、注目される語
　「笑」の上欄に角筆文字「ニタニシテ」（6十八史略、明治三年刊）
　痛〳〵（「ハナ〳〵シ」は右傍の角筆文字）（17近思録、寛文十三年刊）
　窄狭（「ホクコナリ」の角筆文字存疑）（17同右）
　「踵」の上欄に角筆文字「クビス」（24禮記 再刻後藤点、安政二年刊）
　右の例のうち「ニタニシテ」は「ニタニタシテ」と関係があるとすれば、口頭語の反映と見られよう。

二、山口県立山口図書館蔵本

山口県立山口図書館の蔵書の中からは、角筆文献が五十七点、計二百二十六冊発見された。いずれも江戸時代の木版本で、その漢文本文の漢字句を訓読したり注解したりするために、その行間や上欄外などの白紙部分に角筆で紙面を凹ませて、仮名や漢字などを書入れたものである。その蔵書の中で素姓の分るものは、

「防陽多賀宮文庫」印のあるもの十一点、　計三十五冊
明倫館版（「周防国明倫館図書印」のある一点を含む）
　三点、　計　三冊
「明倫館」印のあるもの
　二点、　計　二冊

浅山吾三氏寄贈書から　三点、　計　七冊
上田源太郎氏寄贈書から　二点、　計二十七冊
個人蔵書印のあるもの
（「小山蔵書」印、一点、二十冊、「河野蔵書」印〈明倫館版一点を含む〉二点、二冊、「藤山蔵書」印、一点、十六冊、「藤原永久」印、一点、六冊）

である。

これらは、山口県立山口図書館蔵の角筆文献が山口県に係るものであり、角筆の書入れが山口県下で行われたものであることを窺わせる。このことは、次のような墨書の書入れが山口に係るものであることからも知られる。

山口仁保中郷河野姓（16天保校正中庸道春点、江戸後期刊）
天保七丙申秋九月長州城京長嶺什物（52古文真宝前集、江戸初期刊）

山口県立山口図書館蔵の角筆文献の五十七点は、漢籍が五十五点、国書が五点である。漢籍は、慶安三年（一六五〇）刊の孟子をはじめ安政二年（一八五五）刊の大学まで、易経・書経・詩経・春秋左氏伝・春秋胡氏伝・禮記・禮記集註・論語・孝経・大学・中庸・晋書・孟子・世説新語補・文選旁訓大全・古文真宝前集・後集・正続文章軌範評林・小学句読等に広くわたっている。国書は、日本政紀と国史略であるが、この種の国書に角筆の書入れが認められたのも初めてである。

角筆の文字には、角筆を用いた人の氏名を記したり、月日を記したりしたものがある。

「先生万歳治右衛門久隆」（角筆）（41晋書、元禄十五年刊）
「正二月廿九日」（角筆）（25文選旁訓大全、元禄十三年刊）

人名や月日は、墨書で書入れられたものもあり、角筆の使用者や年時を知る手掛りとなる。

次下が墨書である。

高橋主殿（3易経、江戸中期刊）、（38書経道春点、江戸中期刊）、（39大学章句、江戸初期刊）
大宮司高橋摂津守新添（10孝経、宝暦十一年刊）
安部氏（11大学芝山後藤先生定本、江戸後期刊）
安部氏・安部蔵書（18竈頭論語集註、江戸初期刊）
戌八月吉日安部氏（36詩経再刻後藤点、江戸後期刊）
有田蔵書（13論語後藤点、江戸後期刊）
安部蓑槌（43論語、江戸初期刊）
石川姓（40詩経、江戸後期刊）
本安（42孟子道春訓点、江戸中期刊）
奈良屋藤之丞（44古文真宝後集、江戸中期刊）
張氏／張令読（45易経再刻後藤点、江戸後期刊）
河野蔵（48中庸、江戸後期刊）
鈴木彌之助・鈴木多吉（50孝経、江戸後期刊）
片山鳳翩註入・享保二年卯ノ四月吉日・安永五申ノ・寛延二己巳十一月三日（20孟子、元禄八年刊）
寛延庚午之五月廿日長井姓三河（花押）（55論語、江戸中期刊）
寛政三亥菊月十六日持主鐘蔵（34古文真宝後集、江戸中期刊）
天明三卯暮春吉日（21孟子、慶安三年刊）
三春月（8春秋胡氏伝、江戸後期刊）

角筆の書入れは、漢籍や国書の漢文に対して訓点として施したものが多いが、その仮名には、片仮名を使用するという訓点の伝統に反して、平仮名を用いたものが少なくはない。これは、先に述べたように、角筆が凹み文字であることにより、毛筆等の規範に捉われないことの反映である。角筆の平仮名は次のようである。

「きき」（「著亀」の上欄）（15中庸全、江戸初期刊）
「こかと」（「耕稼陶漁」の上欄）（19孟子、寛文十年刊）

「けとん・けへとん」（「雞豚」の右・左傍）（21孟子、慶安三年刊）
「しそんのふむ」（「履ニ至尊ヲ一」の上欄）（32古文真宝後集、享保三年刊）
「ふへつ」（「傅説」の上欄）（35古文真宝後集、貞享四年刊）
「おこる」（「奢」の右傍）（43論語、江戸初期刊）

又、角筆の文字からは、当時の日常的な発音の実態や語彙なども知られる。以下に注目されるものについて挙げる。

先ず、「防陽多賀宮文庫」印のある角筆文献を見よう。山口県立山口図書館蔵の十一点は、寛文十年刊、延宝四年刊、元禄十三年刊、享保三年刊、宝暦十一年刊など江戸初期から江戸中期の板本である。その墨書の書入れに「大宮司高橋摂津守新添」（10孝経）、「高橋主殿」（3易経、38書経道春点、39大学章句）とあり、角筆の仮名の上を墨仮名がなぞっていることから見ると、角筆の使用者には、多賀宮の宮司のいたことが考えられる。

1、オ段長音・オ段拗長音を短呼する
耕稼陶漁（「こかと」は上欄の角筆文字）（19孟子、寛文十年刊）
畢竟（「ヒツキヨ」は右傍の角筆文字）（33小学外篇、延宝四年刊）
表章（「ヒヤ」は右傍の角筆文字、「ヒヨウ」の短呼表記）（39大学章句、江戸初期刊）

2、「セイ」（セー）の短呼
誓符（「セ」は右傍の角筆文字）（25文選旁訓大全、元禄十三年刊）

3、オ段長音・オ段拗長音の開合の乱れ
糞（「コイネコ」は右傍の角筆文字）（25文選旁訓大全、元禄十三年刊）
掃粃糠（「ひ孝はろを」は上欄の角筆文字）（32古文真宝後集、享保三年刊）
蒸徒（「上」は類音字で右傍の角筆文字）（25文選旁訓大全、元禄十三年刊）
重畳（「上」は類音字で右傍の角筆文字）（25同右）

4、合拗音の使用
城郭（「定くわく、せいくわく」は上欄の角筆文字）（32古文真宝後集、享保三年刊）

5、いわゆる四つ仮名の乱れ
愧（「ハジ」は右傍の角筆文字）（17中庸道春点、江戸初期刊）

6、「ヒ」を「シ」と発音
斉（「シトシウ」は上欄の角筆文字）（12小学、江戸中期刊）

7、拗音「シュ」を「シ」と発音
帰趣（「シ」は右傍の角筆文字）（39大学章句、江戸初期刊）

8、連声（助詞ヲをノと発音する）
履ニ至尊一（「しそんのふむ」は上欄の角筆文字）（32古文真宝後集、享保三年刊）

9、古語シジムの使用
縮（「シジ」は右傍の角筆文字）（33小学外篇、延宝四年刊）

次に、「防陽多賀宮文庫」印を持つ以外の角筆文献を見るに、角筆を書入れた年時や書入れた人物の未詳のものが多いが、発音や語彙の注目すべき事象は、「防陽多賀宮文庫」印を持つ角筆文献に通ずる。以下に示そう。

1、オ段長音・オ段拗長音を短呼する
広大（「コ」は右傍の角筆文字）（15中庸、江戸初期刊）
広土（「コ」は右傍の角筆文字）（20孟子、元禄八年刊）
江（「コ」は右傍の角筆文字）（20同右）
公都子（「コトシ」は右傍の角筆文字）（22鼇頭孟子、延宝二年刊）
郊（「コ」は右傍の角筆文字）（22同右）
袍（「ホ」は右傍の角筆文字）（36詩経再刻後藤点、江戸後期刊）

2、
捂亡（「コクボ」は右傍の角筆文字）（37孟子、寛文二年刊）
成功（「セコ」は右傍の角筆文字）（43論語、江戸初期刊）
良貴（「リヨ」は右傍の角筆文字）（22鼈頭孟子、延宝二年刊）
冗兵（「ジヨ」は上欄の角筆文字）（24日本政記、文久元年刊）
一妾（「シヤ」は右傍の角筆文字、「ショウ」の短呼表記）（37孟子、寛文二年刊）
「ケイ」「セイ」の短呼
雞豚（「けとん」「けへとん」は右・左傍の角筆文字）（21孟子、慶安三年刊）
景春（「け」は右傍の角筆文字）（22鼈頭孟子、延宝二年刊）
成功（「セコ」は右傍の角筆文字）（43論語、江戸初期刊）

3、
オ段長音・オ段拗長音の開合の乱れ
慕（「シトヲ」は上欄の角筆文字）（29孟子 再刻後藤点、天保十一年刊）
亥唐（「ガイトウ」は右傍の角筆文字）（28孟子、江戸初期刊）
霄（「正」は類音字で右傍の角筆文字）（22鼈頭孟子、延宝二年刊）

4、
合拗音の直音化
館（「カンス」は右傍の角筆文字）（28孟子、江戸初期刊）
懐顧（「カイコ」は右傍の角筆文字）（31詩経下、江戸中期刊）
蛔（「カイ」は右傍の角筆文字）（41晋書、元禄十五年刊）

5、
「ダ」を「ザ」と発音
仇（「アザ」は右傍の角筆文字）（36詩経 再刻後藤点、江戸後期刊）

6、
「ヒ」を「シ」と発音
馮婦（「シヤウフ」は右傍の角筆文字）（37孟子、寛文二年刊）

7、
拗音「シュ」を「シ」と発音
樹間（「シカン」は右傍の角筆文字）（27古文真宝後集、寛文九年刊）
醇酎（「シン」は右傍の角筆文字）（27同右）

8、
趣舎（「シ」は右傍の角筆文字）（27同右）
「チ」を「キ」と発音
含蓄（「カンキク」は左傍の角筆文字）（20孟子、元禄八年刊）
紂（「キウ」は右傍の角筆文字）（22鼈頭孟子、延宝二年刊）

9、
連声
飲燕（「イン」は右傍、「ネン」は左傍の角筆文字）（44古文真宝後集、江戸中期刊）

10、
「キ」を「シ」と表記
「蓍亀」の右傍に「シキ」、上欄に「きき」（15中庸、江戸初期刊）

11、
注目される語、語句
「近習」の上欄に「ヘヤノソキン（側近）」（5禮記、江戸初期刊）
「鹿」の上欄に「カタコ」（24日本政紀、文久元年刊）
「踵」の右傍に「キヒス・クヒス」（37孟子、寛文二年刊）

以上の諸事象は、山口県下の江戸時代における日常の言語の実態を窺う資料となる。

三、禅昌寺蔵本

禅昌寺は山口市小鯖に在る曹洞宗の寺院である。応永三年（一三九六）に大内義弘公が慶屋定紹禅師を招かれて開創された。この経蔵から今回の調査で八点、計五十三冊の角筆文献が発見せられた。町田宗夫御住職様の御厚情と御世話によるものである。いずれも江戸時代の木版本で、その漢文本文の読解のために、角筆で紙面を凹ませて、漢字句の注文を書入れたり、訓点として仮名・漢字を書入れたりしたものである。仏書が六点、漢籍が二点である。仏書は左の通りである。

改正新板 首楞厳義疏注経　十冊　天和三年（一六八三）刊［禅3］
禅儀外文　一冊　寛永十年（一六三三）刊［禅4］
支那撰述 法華要解　五冊　江戸初期刊［禅5］
科注 妙法蓮華経　九冊　元禄三年（一六九〇）刊［禅6］

維摩経　十冊　寛永十八年（一六四一）刊（禅7）
斎別受八戒作法　一冊　延宝九年（一六八一）刊［禅8］

又、漢籍は次の二点である。

改訂音訓孟子　四冊　江戸後期刊、明倫館版［禅1］
淮南鴻烈解　十三冊　寛文四年（一六六四）刊［禅2］

角筆の書入れは、明倫館版の「改訂音訓孟子」［禅1］に、「八月終」（巻一、五十二丁裏）、「原田姓」（巻二、内表紙）の凹みの文字があるから、山口で行われたことを考えしめる。又、墨書でも、「支那撰述法華要解」［禅5］の裏表紙遊紙に「岸呂村」「楽法寺」とあり、「維摩経」［禅7］の表紙見返に「禅昌寺」とあり、これも山口と関係のあることが知られる。

角筆の字句には、

「訓文ニハ心也」（本文「復二相自相陵奪（ハヲレトモ）」の上欄の角筆）
（改正新板首楞厳義疏注経［禅3］巻二下）
「智論ノ偈」の右傍に角筆「一巻」（同右巻一上）
「此人」の右傍に角筆「此抄非也此ノ師ヲ俗美シク」（禅儀外文［禅4］）
「群生」の右傍に角筆「一切衆生」（維摩経［禅7］）
「宝蓋」の右傍に角筆「三千世界」（同右）

などがあり、又、「淮南鴻烈解」［禅2］の第十冊の第十七丁裏か十八丁表にわたって、上欄に角筆で「困」字が八字、習書風に書入れたものもある。

角筆の仮名には次のような国語史上注目される事例がある。

徐辟（ジョヒ）（改訂音訓孟子［禅1］）
「シ」は「辟（ヒ）」の訛りと見られる。類例は、山口大学附属図書館の角筆文献の中にも、「牝牛（シ）」（22易経）があった。
健（スクヤカナルヲ）（禅儀外文［禅4］）

この古語が用いられていたことが分る。

四、乗福寺蔵本

乗福寺は山口市大内御堀に在る臨済宗南禅寺派の寺院である。鎌倉時代後期、大内重弘の創建である。この蔵書から四点、四冊の角筆文献が発見せられた。五十部令脩御住職様の御厚情と御世話によるものである。いずれも、江戸時代書写の次の古文書、記録類である。

多々良氏譜牒外覚書　一冊　江戸中期写［乗1］
乗福寺記録　一冊　江戸中期写［乗2］
琳聖大子宝剣来由　一冊　江戸後期写［乗3］
南明山薬師如来来由記　一冊　江戸中期写［乗4］

本文を読解するために、角筆で漢字の注や符号を書入れたもの［乗1・乗2・乗4］であるが、「琳聖大子宝剣来由」は、巻末の宝剣図の下絵に角筆の凹みを用いている。絵画における下絵技法として角筆が山口でも江戸時代にまで行われていたことが知られる。(5)

三、特に蘇悉地羯羅供養法平安中期角筆点について

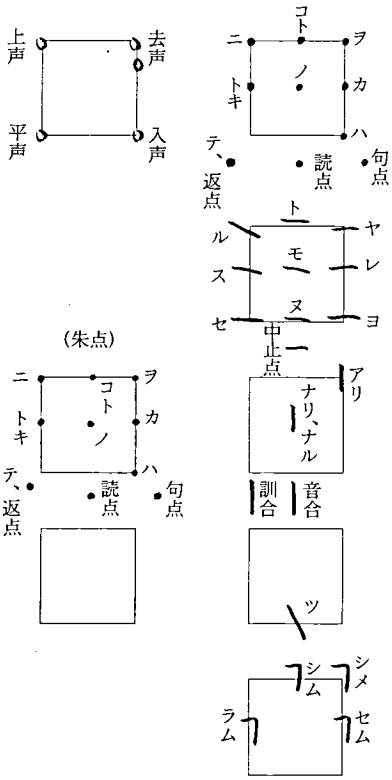
山口市域の角筆文献のうち、龍蔵寺に蔵せられる蘇悉地羯羅供養法一巻は、他寺院の角筆文献が江戸時代のものであるのに対して、時代が遙かに溯り、平安中期十世紀のものであり、しかも寛平法皇に係る重要な文献と目されるので、特に節を改めてここに述べることにする。

龍蔵寺は山口市吉敷に在る真言宗御室派の古刹である。中国観音霊場第十七番札所として、鼓の瀧で知られる。貞享五年の山田原欽撰述の「防州吉敷郡瀧塔山龍蔵寺縁起」によると、草創は、文武天皇の二年に役小角が鼓の瀧の岩窟において護摩供を修し、紀州熊野の三所権現を勧請し、次いで、聖武天皇の天平十三年（七四一）に僧行基が自ら千手観音一躯を作り、寺を竜蔵寺と号したと伝えるが、その証は得られていない。

その宝物庫の典籍の中に、蘇悉地羯羅供養法巻上の一巻が伝わっていた。巻子本で巻下を佚するが、上巻は首尾を完存する。巻首に虫損等があるが文字の解読には殆ど障らない。奥書は無いが墨書本文は、平安中期十世紀の前半期の書写である。その書誌上の事項については、本稿末の付載、「山口市域の角筆文献一覧（所蔵別）」を参照されたい。

この墨書本文の全巻にわたって、角筆で紙面を凹ませて書入れた、訓点が施されている。訓点は、仮名とヲコト点と符号である。その仮名字体とヲコト点は次のように帰納される。

図一　龍蔵寺蔵蘇悉地羯羅供養法巻上のヲコト点図（角筆点）



先ず、ヲコト点から見るに、その形式は慈覚大師点（中田祝夫博士が仮称された「乙点図」に当る）であることが、一見して明らかである。慈覚大師点の加点資料は、今日までに二十余点が確認されている。それらのヲコト点法、仮名字体、訓読法の特徴については、既に別稿で述べた所であり、[6] 平安中期十世紀に限って用いられたヲコト点法である。

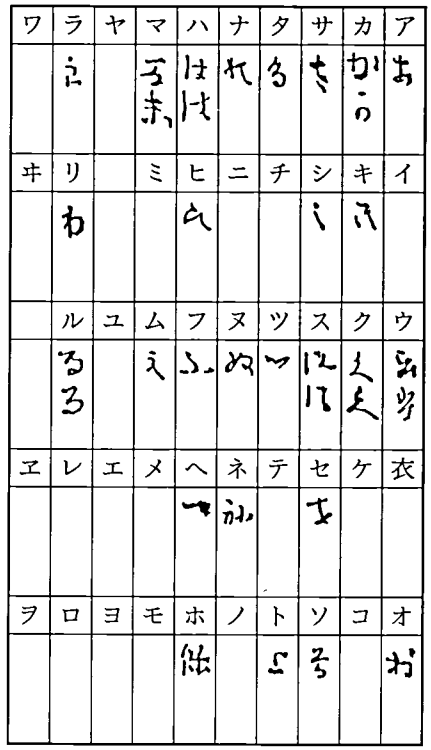
図二　龍蔵寺蔵蘇悉地羯羅供養法巻上の仮名字体（角筆点）

次に、仮名字体を見るに、極めて特異な字体であることが分る。特に、「ア」（ウ）、「ニ」（キ）、「メ」（ク）、「ら」（ケ）、「ん」（サ）、「ム」（ソ）、「大」（チ）、「し」（ナ）、「小」（ネ）、「イ」（マ）、「个」（メ）、「ル」（ル）などは極めて特徴的であって、現存し調査し得た数千点の訓点資料の中で、次の六つの訓点資料以外には、使用例を見ないものである。

東山御文庫蔵　周易抄　一巻
東寺観智院金剛蔵　胎蔵秘密略大軌　二巻
同　蔵　胎蔵略述　一巻
高野山大学図書館蔵　胎蔵秘密略大軌　一巻
東寺観智院金剛蔵　三親王潅頂時儀式 昼作法　一帖
随心院蔵無畏三蔵禅要　一巻

この六点の訓点資料は、いずれも、本文が平安中期十世紀前半期の書写であり、書写と同期に施された訓点のうち、ヲコト点に慈覚大師点を用いており、仮名字体に右掲の特徴的な字体を用いて一致している。特に、周易抄は、宇多天皇（譲位して寛平法皇。承平元年〈九三一〉崩御、六十五歳）の宸翰であり、本文の漢字句に訓点と訓注が施されている。その訓点がヲコト点に慈覚大師点と右掲の特徴的な仮名字体を用いているのであるが、これは、訓注として用いた独草体の仮名（女手の古形）を字源としてその省画によって創出された片仮名であり、寛平法皇の創案と見られる。東山御文庫蔵周易抄の訓注に用いた草仮名を五十音図に整理して示すと次のようである。

図三　東山御文庫蔵周易抄の草仮名（訓注）

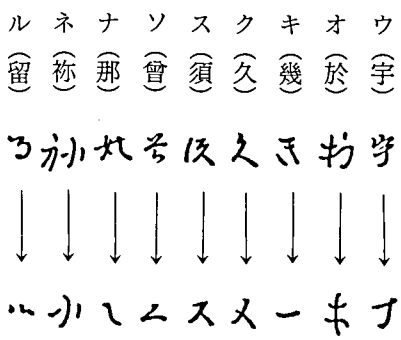


又、右掲の六つの訓点資料の片仮名字体を纏めて示すと次の図のようである（六資料のそれぞれの個別の仮名字体表については別稿に掲げたので参照されたい）。

図四　寛平法皇の片仮名字体

周易抄に用いた草仮名と先掲の特徴的な片仮名との関係は、次のようになる。

図　五



しかも、先掲の六つの文献は、内容上も寛平法皇にゆかりの深い資料である。周易抄が寛平法皇の宸翰と見られることは、紙背文書などから別に論じた所であり、[8] 寛平法皇撰述書の胎蔵秘密略大軌の高野山大学図書館蔵本が草稿本であるのに対して、東寺観智院金剛蔵本がその浄書本であることも別に証した所である。[9] 又、三親王潅頂時儀式 昼作法 が寛平法皇の撰述書であると共に、法皇が第三皇子の真寂に東寺の潅頂院に於て、潅頂を授けられた折に御使用の現物が、そのまま東寺に伝わったと見られることも説いた所である。[10]

寛平法皇は、御室に仁和寺を創建された方であり、龍蔵寺も真言宗御室派の古刹である。蘇悉地羯羅供養法の伝来経路は未詳であるが、これが龍蔵寺に伝わっていることは故なしとしないのである。

この龍蔵寺蔵の蘇悉地羯羅供養法の角筆の書入れが平安中期十世紀の前半期であることは、国語史上、ア行の「衣」とヤ行の「エ」を区別する事象から証せられる。

浮噎（247行）

不レ応ニ驀過一（263行）

「噎」は影母四等[11]でありこれにア行の「衣」を用いるのに対して、ヤ行動詞の「越ゆ」の連用形にヤ行の「エ」を用いて、両者を正しく区別している。

平安初期九世紀の前半期まで区別のあった、ア行の「衣」とヤ行の「エ」は、大智度論天安二年（八五八）点、地蔵十輪経元慶七年（八八三）点などを古例として混同が見え始める。平安中期十世紀前半期には承平五年（九三五）の土左日記（青谿書屋本）では概して区別され、淳祐（八九〇―九五三）加点の石山寺本蘇悉地羯羅経略疏天暦五年（九五一）点では区別があるが、源順の倭名類聚抄（承平四年、九三四成立）、日本紀竟宴和歌下（天慶六年、九四三）では混同が見られ、九五〇年頃を境として区別が無くなるとされる。

このことから考えると、角筆の書入れ時期は、十世紀天暦以前と見られる。

蘇悉地羯羅供養法の古点本は、松本光隆氏によれば、[12] 二十点が知られ、宗派としては、天台宗の山門派と寺門派、真言宗小野流のものが見られ、真言宗広沢流の資料が見られないという。これによって「平安後半期に真言宗も広沢流においての蘇悉地羯羅供養法の訓読が伝統的には存しなかったか、または、比較的軽微であったことを物語るものであろうと推定され」ている。但し、杲宝撰の宝冊抄の「蘇悉地経軌列祖相承事」の記事に基づいて、蘇悉地法が、延喜十六年（九一六）八月十五日に寛平法皇が蓮台寺僧正（寛空）に授け、寛空は天暦元年（九四七）三月二十八日には三部大法を寛静に授け、天暦二年（九四八）九月九日には、宮中真言院において蘇悉地羯羅供養法を以て蘇悉地法を寛朝に授け、又、寛朝は永観二年（九八四）八月二十四日の官符を掲げ三部大法を熙拯に授け、一方、寛空は神日から研学したことを指摘している。龍蔵寺蔵の蘇悉地羯羅供養法の角筆の訓点は、正に、その記載を裏付ける資料である。仮名字体、及びア行の「衣」とヤ行の「エ」の区別から考えると、右の相承のうち、寛平法皇が寛空に授けたものであろう。寛空は、訓点本の奥書に名は出るが未だ訓点使用の例を見ないのも消極的ではあるが、右のことを考えしめる。恐らく寛平法皇の仮名字体は師資相承の形をとらなかったのであろう。

尚、龍蔵寺の蘇悉地羯羅供養法は、角筆のヲコト点のうち、星点の「・」だけを朱点が凹みの上から重ねて加点している。ヲコト点の点線や鉤点と仮名字体とは朱筆でなぞることは一切していない。この経巻を尊重し、紙面を漫りに汚さないという配慮に出るものと見られる。これと同じ状況は、同じく寛平法皇の加点と考えられる、東寺観智院金剛蔵の三親王潅頂時儀式 昼作法 と随心院蔵無畏三蔵禅要にも見られる。前者は、既述の如く、寛平法皇が第三親王の真寂に東寺潅頂院に

おいて潅頂を授けられた折に使用された当時の聖教である。

（以上、小林芳規執筆）

注

(1) 拙稿「角筆文献の国語学的研究」（学術月報五六七号、平成四年三月号）。
(2) 拙稿「広島県の角筆文献」（広島女子大国文第七号、平成二年八月）に言及。
(3) 山口大学附属図書館編「明倫館・山口明倫館・越氏塾旧蔵和漢書目録」（平成元年三月）。
(4) 拙稿「鎌倉時代の口頭語の研究資料について」（鎌倉時代語研究第十一輯、昭和六十三年八月）。
(5) 拙稿「備後国御調八幡宮蔵本角筆下絵八幡大菩薩御縁起」（『古典研究会創立二十五周年記念国書漢籍論集』平成三年八月）。
(6) 拙稿「乙点図所用の訓点資料について」（『中田祝夫博士功績記念国語学論集』昭和五十四年二月）。
(7) 拙稿「随心院蔵無畏三蔵禅要平安中期角筆点について―寛平法皇の訓点追考―」（訓点語と訓点資料第八十四輯、平成二年六月）。
(8) 拙著『角筆文献の国語学的研究』研究篇、第三章第四節寛平法皇の訓点と角筆使用（汲古書院、昭和六十二年七月刊）。
(9) 注(8)文献。
(10) 注(8)文献。
(11) 平安初期九世紀前半期の加点とされる、西大寺本金光明最勝王経古点の「厭魅」に「依ム反」の加点があり、春日政治博士は、「厭字は影母四等であった（之は前者とは異筆の仮名であるが）、ア行の依を用ゐてあるのは、両者を正しく分別してゐるものである」とされている。この古点では国語音ではア行の「衣」とヤ行の「エ」を正しく区別しており、字音でも区別があるとされるから、影母四等をヤ行と見て混同例とすると加点時期や加点事情に合わなくなる。
(12) 松本光隆「平安鎌倉時代における蘇悉地羯羅供養法の訓読」（高知大国文第二十二号、平成三年十二月）。

[附載]

山口市域の角筆文献一覧（所蔵別）

小林芳規
柚木靖史
豊田尚子
藤田夏紀
岩川直子
岡野幸夫

凡例

一、此の一覧は、山口市域から発見された角筆文献の百二十二点、計五百三十二冊を所蔵別に掲げたものである。

一、所蔵毎に、整理番号を次のように付した

山大1～50……山口大学附属図書館蔵本（計50点）
県図1～59……山口県立山口図書館蔵本（計59点）
禅1～8……禅昌寺蔵本（計8点）
乗1～4……乗福寺蔵本（計4点）
龍1……龍蔵寺蔵本（1点）

それぞれの順序は発見順によった。

一、各角筆文献についての解説は、必要最小限に止めた。概ね、次の事項に従った。

(1)整理番号、(2)書名、(3)員数、(4)板行年又は書写年時、(5)装幀、(6)印（伝来を示すものを主とする）、(7)訓点附刻の有無、(8)角筆の書入れの他に墨書・朱書・白書の書入れの有無、(9)刊記、(10)発見年月日・発見者・角筆文献番号（「　」内）、(11)角筆文字等について、文字の種類・書入れ場所・国語史上注目すべき事例など（簡要を旨とした）。

山口大学附属図書館蔵本　50点（山大1～山大50）　232冊

山大1　皇朝史略　二冊

江戸時代後期刊、袋綴装、「周防國明倫館図書印」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

（表紙裏）文昌堂蔵板

平成三年八月二十日　岡野幸夫発見［479］

○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニアリ、「任那」、「片塩」ノ上欄ニ「シワ」ナドトアリ、第二冊ノ巻末ニ「文政丙戌秋九月　男延光謹書」ノ墨書アリ、

山大2　皇朝史略　十冊

江戸時代後期刊、袋綴装、「周防國明倫館図書印」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

（表紙裏）文昌堂蔵板

平成三年八月二十日　岡野幸夫発見［480］

○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニアリ、「木蓮子」ノ上欄ニ「イチビ」、「鳥木史貞」ノ上欄ニ「フミサネ」ナドアリ、第六冊ノ巻末ニ「文政丙戌秋九月　男延光謹書」ノ墨書アリ、

山大3　史記論文　八冊

江戸時代文政九年刊、袋綴装、「周防國明倫館図書印」印アリ、訓点附刻ナシ、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

（表紙裏）大日本文政丙戌翻刻／晉陵呉齋賢許點／天游園蔵板

平成三年八月二十日　岡野幸夫発見［481］
○角筆ノ仮名、上欄ニ散在（第一冊ヨリ確認）、

山大4　宋名臣言行録　三冊
江戸時代寛文七年刊、袋綴装、「奇兵隊印」「周防國明倫館図書印」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、
（刊記）寛文七年丁未冬十一月
（表紙裏）皇都　永田文昌堂
平成三年八月二十日　岡野幸夫発見［482］
○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニアリ、

山大5　日本外史補　二冊
江戸時代後期刊、袋綴装、「周防國明倫館図書印」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、
（序）嘉永三年庚戌秋八月淡路岡田僑撰
（版心記）岡田氏蔵版
平成三年八月二十日　岡野幸夫発見［483］
○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニアリ、「飯沼」ノ上欄ニ「イヽヌマ」、「四条畷」ノ上欄ニ「ナワテ」ナドアリ、

山大6　十八史略　三冊
明治三年刊、袋綴装、「周防國明倫館図書印」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、
（刊記）萬治二己亥年九月原鐫
明治三庚午年正月五刻
（第三冊跋文）天明改元夏五平安藤原正臣謹誌
平成三年八月二十日　岡野幸夫発見［484］
○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニアリ、（特ニ第一冊ニ多シ）、「笑」ノ上欄ニ「ニタニシテ」トアリ、

山大7　後漢書　十六冊
江戸時代中期刊、袋綴装、「明倫館印」印アリ、訓点附刻、朱書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十日　豊田尚子発見［485］
○角筆ノ仮名、上欄等ニ少々アリ、

山大8　韋注國語　三冊
江戸時代天明六年刊、袋綴装、「明倫館印」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書・青書書入レ
（刊記）（第三冊末）
原本明兵部左侍郎石星校閲
重刻東部芸閣千葉先生再校
天明六年丙午春正月
日本皇都堺町錦小路上
角田多助法軸
平成三年八月二十日　豊田尚子発見［486］
○角筆ノ仮名・漢字、主ニ上欄ニアリ、「聳」ノ上欄ニ「ソビエル」、「無有要質」ノ上欄ニ「無有要質」ナドアリ、

山大9　漢書評林　三冊
江戸時代中期刊、袋綴装、「明倫館印」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十日　豊田尚子発見［487］
○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、「訓」ノ上欄ニ「クん」トアルナドナリ、

山大10　皇朝戦略編　三冊
江戸時代安政三年刊、袋綴装、「明倫館印」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、
（刊記）尾張　宮田平五郎　輯
安政三年丙辰春刻成

修古堂蔵版

平成三年八月二十日　豊田尚子発見［488］

○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニアリ、「計畫」ノ上欄ニ「カク」ナドアリ、

山大11　文選六臣註 巻之十七　一冊

江戸時代中期刊、袋綴装、「明倫館印」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　豊田尚子発見［489］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、「須臾」（「シユ」ヲ「シ」ト発音）、「貌形」ノ上欄ニ「ホウ」ナドアリ、

山大12　寛政新刻　論語 道春點　一冊

江戸時代寛政年間刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　柚木靖史発見［490］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、仮名ハ平仮名ヲ主トスル、「仁」「興」ナドナリ、

山大13　新刻校正　論語 再刻後藤點　一冊

江戸時代後期刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、他朱印二顆アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　柚木靖史発見［491］

○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニアリ、

山大14　論語（内題）　一冊

江戸時代初期刊、袋綴装、「山根信太郎寄贈」印アリ、他朱印二顆アリ、訓点附刻、朱書書入レ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　柚木靖史発見［492］

○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニアリ、「一貫」ナドナリ、

山大15　孝經大義　一冊

江戸時代中期刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、他朱印二顆・墨印一顆アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　柚木靖史発見［493］

○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニアリ、「正月吉旦三戸姓」「三戸什物」「三戸姓」ノ墨書アリ、

山大16　孝經新註　一冊

江戸時代天明八年刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、他朱印一顆・墨印一顆アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、

（刊記）天明八年戊申十一月　心齋橋通南久寶寺町／大阪書林崇高堂　河内屋八平衛

平成三年八月二十日　柚木靖史発見［494］

○角筆ノ仮名、行間ニアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、「大夫」ナドアリ、

山大17　近思録　四冊

江戸時代寛文十三年刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、他朱印一顆・墨印一顆アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、

（刊記）徒維灘寛文癸丑年／石渠尚重校梓姑洗月焉逢牂日／柳馬場通二条下町／吉野屋權平衛刊行

（表紙裏）稽古齋藏板

平成三年八月二十日　藤田夏紀発見［495］

○角筆ノ仮名、行間・欄外ニ多クアリ、「大匠」（「ショウ」ヲ「シウ」ト発音）、「濂溪」「痛」「冒」「窄狭」ナドアリ、

山大18　校正小學　四冊

江戸時代文政十二年刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、他一顆アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、

（刊記）文政十二己丑年補刻文籍堂／宮川町鉄橋筋／摂陽書林／三谷喜兵衛

平成三年八月二十日　藤田夏紀発見［496］

○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニアリ、第一冊表紙見返ニ「志賀蔵書」ノ墨書、裏表紙見返ニ「萩河添中千志賀姓」ノ墨書アリ、

山大19　論語　四冊

江戸時代初期刊、袋綴装、「景山家文書」印アリ、他朱印二顆アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　豊田尚子発見［497］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、「荘子（ソシ）」「果敢（クワカン）」ナドアリ、第一冊表紙見返ニ「山口県豊浦郡吉見村士族／林直聿」ノ朱書アリ、

山大20　中庸章句　一冊

江戸時代中期刊、袋綴装、「景山家文書」印アリ、他朱印二顆アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　豊田尚子発見［498］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、「沈潛（チンシン）」ナドアリ、裏表紙ニ「山口県豊浦郡吉見村士族／林直聿」ノ朱書アリ、

山大21　改正音訓　易經　再刻後藤點　二冊

江戸時代後期刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、他朱印一顆・墨印一顆アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

（序文）寛政庚戌孟春／國子祭酒林信敬譔

文化九年壬申九月／江都　佐藤坦撰

平成三年八月二十日　柚木靖史発見［499］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、第一冊裏表紙ニ「本町山根義亮什物」ノ墨書アリ、

山大22　改訂音訓　易經　再刻後藤點　乾・坤　二冊

江戸時代後期刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、他ニ朱印二顆アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

（序文）寛政庚戌孟春／國子祭酒林信敬譔

文化九年壬申九月／江都　佐藤坦撰

平成三年八月二十日　岡野幸夫発見［500］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、「寇（コ）」「牝牛（シ）」「失得（シトク）」ナドノ例アリ、

山大23　改正音訓　書經　再刻後藤點　人・地　二冊

江戸時代後期刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、他朱印二顆・墨印一顆アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　岡野幸夫発見［501］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、

山大24　改正音訓　禮記　再刻後藤點　七冊

江戸時代安政二年刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、他朱印一顆アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、

（刊記）安政二年乙卯四月吉旦　五刻

平成三年八月二十日　岡野幸夫発見［502］

○角筆ノ仮名・漢字、主ニ上欄ニアリ、上欄ニ角筆ニテ「三日之」トアリ、「踵」ノ上欄ニ「クビス」ナドアリ、

山大25　改正音訓　春秋　再刻後藤點　三冊

江戸時代後期刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、他墨印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　岡野幸夫発見［503］

○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニ多クアリ、「郤缺」ノ上欄ニ「ゲキケキ」ナドアリ、

山大26　詩經（内題）　二冊

江戸時代後期刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、他墨印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　岡野幸夫発見［504］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、第一冊裏表紙見返ニ「萩河添本丁山根什物」ノ墨書、第二冊裏表紙見返ニ「明治丙子九年十二月」

ノ墨書アリ、

山大27 新刻改正大學 再刻後藤點　一冊

江戸時代後期刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　藤田夏紀発見［505］

○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニアリ、仮名ハ平仮名ヲ用イル、「不レ于レ経」ノ上欄ニ「つねにをいてせ」ナドアリ、

山大28 新刻校正中庸 再刻後藤點　一冊

江戸時代後期刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　豊田尚子発見［506］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、仮名ニハ平仮名ヲ用イル、表紙見返ニ「四書之／山根什物」ノ墨書アリ、

山大29 中庸（内題）　一冊

江戸時代後期刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、他墨印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年八月二十日　豊田尚子発見［507］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、表紙見返ニ「四書之／山根什物」ノ墨書アリ、

山大30 標記増補十八史畧　六冊

江戸時代天保十年刊、袋綴装、古印ナシ、訓点附刻、墨書書入レナシ、（刊記）天保十年己亥再刻成

平成三年八月二十日　藤田夏紀発見［508］

○角筆ノ漢字・仮名、行間・上欄ニ多クアリ、「肸」ノ上欄ニ「音キツ／ヲシヘ／同レ 肸（キツ）」「槐里（カイ）」「遮（サイキリ）」ナドアリ、第一冊裏表紙見返ニ「河野」ノ墨書アリ、

山大31 資治通鑑　四十六冊

江戸時代嘉永二年刊、袋綴装、「明倫館印」印アリ、訓点附刻ナシ、墨書・朱書書入レ、

（刊記）津藩 石川之製 土井有恪 同校

（跋文）刻資治通鑑序（四十二行略）／嘉永二年己酉冬十月　伊賀國主藤原高猷撰　刻資治通鑑跋／（二十二行略）／嘉永二年己酉夏五月中澣／幕府講官佐藤坦撰

平成三年十月三日　豊田尚子発見［579］

○角筆ノ仮名・漢字、主ニ上欄ニアリ、第十三冊表紙見返ニ「明倫館御書物」ノ墨書アリ、

山大32 書経大全　五冊

江戸時代初期刊、袋綴装、「明倫館印」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、刊記ナシ、

平成三年十月三日　豊田尚子発見［580］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル（第一冊ヨリ確認）、

山大33 改正音訓易經 後藤點　二冊

江戸時代後期刊、袋綴装、朱印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

（序文）後藤點五經序／（十七行略）／寛政庚戌孟春／國子祭酒林信敬譔

（版心記）後藤點

平成三年十月三日　柚木靖史発見［581］

○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニ散在ス、第一冊巻末ニ「松林山蔵書／文化丙寅歳求之」ノ墨書アリ、

山大34 春秋集註　三冊

江戸時代中期刊、袋綴装、「明倫館印」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年十月三日　豊田尚子発見［582］
○角筆ノ仮名、行間ニ多クアリ、「寗兪（ネエユウ）」「寗殖（ネエショク）」「嬰斉（エ、）」「桓公（クハン）」ナドアリ、

山大35　文選正文　四冊
江戸時代天明四年刊、袋綴装、「明倫館印」印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、
（刊記）天明四年甲辰夏五月吉日　京師書肆風月荘左衛門梓
平成三年十月三日　岡野幸夫発見［583］
○角筆ノ仮名、行間ニアリ（第一冊ヨリ確認）、

山大36　新刻改正孟子　再刻後藤點　一冊
江戸時代安政五年刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、墨印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、
（刊記）安政五年戊午春正月　六刻
平成三年十月三日　柚木靖史発見［584］
○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニアリ、上欄ニ「解」ナドノ角筆ノ漢字アリ、

山大37　蒙求　三冊
江戸時代寛保元年刊、袋綴装、「山根家文書」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、
（刊記）東都　南郭先生考訂
寛保元年辛酉春三月
皇都　梅井藤右衛門
植村　藤三郎　梓行
平成三年十月三日　岡野幸夫発見［585］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、

山大38　赤穂四十七士傳（内題）　二冊
江戸時代嘉永三年刊、袋綴装、「明倫館印」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、刊記ナシ
（第一冊、表紙見返シ）嘉永庚戌新鐫
珮弦齋雑著
水府珮弦齋蔵版
平成三年十月三日　岡野幸夫発見［586］
○角筆ノ仮名、上欄ニアリ（第一冊ヨリ確認）、

山大39　校定音訓易經、書經、禮記、春秋　改點　九冊
江戸時代後期刊、袋綴装、「景山家文書」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、
平成三年十月三日　豊田尚子発見［587］
○角筆ノ仮名・漢字、主ニ上欄ニアリ、上欄ニ「天」ナドノ角筆ノ漢字アリ、第八冊裏表紙見返ニ「天保十二年辛丑初春再刻」ノ墨書アリ、

山大40　新刻改正中庸　後藤點　一冊
江戸時代後期刊、袋綴装、朱印アリ、訓点附刻、朱書書入レ、刊記ナシ、
平成三年十月三日　豊田尚子発見［588］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、「郊社（コシヤ）」「服膺（ヨ）」ナドノオ段長音ノ短呼ノ例アリ、柱ニ「北村蔵」トアリ、

山大41　新刻改正孟子　後藤點　四冊
江戸時代天保六年刊、袋綴装、朱印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、
（刊記）天保六年乙未孟春三刻
天安書肆　五條通高倉東入町
北村四良兵衛
浪華書肆　上町南草屋町
山内五郎兵衛
平成三年十月三日　豊田尚子発見［589］

○角筆ノ仮名・漢字、行間ニアリ、柱ニ「北村蔵」トアリ、

山大42 首書春秋集註　十五冊

江戸時代寛文四年刊、袋綴装、朱印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、

（刊記）寛文四甲辰暦　九月吉日

野田庄右衛門　開板

平成三年十月三日　豊田尚子発見［590］

○角筆ノ注解（漢字仮名交リ）ト仮名、多クアリ、本文「自レ邦告」ノ注ニ「宋ニウラミ」（上欄）、「其匹」ノ注ニ「天子」（左傍）、「民庶」ノ注ニ「人促」（左傍）ナドアリ、

山大43　論語（内題）　二冊

江戸時代初期刊、袋綴装、「寄贈毛利就挙」印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、

平成三年十月三日　岡野幸夫発見［591］

○角筆ノ仮名、行間ニアリ、「家宰（チヨ）」ナドアリ、

山大44　新増評註古文真寶（後集）　七冊

江戸時代延寶八年刊、袋綴装、「寄贈毛利就挙」「徳藩蔵書」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、

（刊記）延寶八庚申歳孟春吉辰

山本長平衛刊行

平成三年十月三日　小林芳規発見［592］

○角筆ノ仮名、行間ニアリ、「秋風辞（シウフウ）」ナドアリ、

山大45　享保丁未改正古文後集　二冊

江戸時代享保十二年刊、袋綴装、「寄贈毛利就挙」「徳藩蔵書」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、

（刊記）正徳二年壬辰孟春吉旦板行

享保十二年丁未仲春改正

書坊　洛陽車屋町通夷川上町　林久次郎

江戸神田元乗物町出店　同源兵衛

平成三年十月三日　小林芳規発見［593］

○角筆ノ仮名、行間・上欄・下欄ニアリ、「飄飄而」ノ上欄ニ「へ」ナドアリ、

山大46　新版改正古文眞寶（後集）　二冊

江戸時代中期刊、袋綴装、「寄贈毛利就挙」「徳藩蔵書」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レナシ、刊記ナシ、

（第二冊、最終丁巻下七十五ウ）清龍堂

平成三年十月三日　小林芳規発見［594］

○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニ多クアリ、「搖搖」ノ上欄ニ「ヨ」、「醲郁」ナドオ段長音ノ短呼、「翳翳」ノ上欄ニ「ヱ」、「災青」ノ上欄ニ「サイセ」、「鉼罌」ノ短呼、「莫邪」ノ上欄ニ「シヤウ」ノ長音化、「焉求」ノ上欄ニ「ナニシカ」、「率」ノ上欄ニ「大ムネ」、「慘悴」ノ上欄ニ「心主」ナドアリ、

山大47　春秋左氏傳　十五冊

江戸時代中期刊、袋綴装、「寄贈毛利就挙」「徳藩蔵書」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年十月四日　豊田尚子発見［595］

○角筆ノ漢字、上欄ニアリ、

山大48　論語古訓　五冊

江戸時代元文四年刊、袋綴装、「寄贈毛利就挙」「徳藩蔵書」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、

（版心記）嵩山房梓

（刊記）元文四年己未夏五月吉

江都書肆　嵩山房蔵板

平成三年十月四日　豊田尚子発見［596］

○角筆ノ仮名、上欄・行間ニアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、

山大49　校定音訓易経・書経・禮記改點　八冊

江戸時代天保十二年刊、袋綴装、「寄贈毛利就挙」「尊経堂称蔵」印アリ、訓点附刻、朱書書入レ、

（第二帙、第四冊、刊記）文化十年癸酉晩秋發兌
天保十二年辛丑初春再刻

平成三年十月四日　豊田尚子発見［597］

○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、

山大50　論語（内題）　八冊

江戸時代天和三年刊、袋綴装、「寄贈毛利就挙」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、

（刊記）天和三癸亥歳仲昏上浣日
邑上　銅駝坊　書肆　長尾平兵衛壽梓

平成三年十月四日　岡野幸夫発見［598］

○角筆ノ注・仮名、行間ニアリ、

山口県立山口図書館蔵本　59点（県図1～県図59）　242冊

県図1　新版校正易経　（乾）（坤）　二冊

江戸時代中期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年八月二十一日　豊田尚子発見［509］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多数アリ、表紙見返ニモアリ、角筆ノ仮名ニハ「類（ヒタイ）」ノ音ヲ「シウ」トスル例アリ、

県図2　官板易経大全　八冊

江戸時代初期刊、袋綴装、朱印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年八月二十一日　藤田夏紀発見［510］

○角筆ノ仮名、上欄ニアリ、本文「随」ノ訓「シ」ヲ示セル等ナリ、

県図3　易経　二冊

江戸時代中期刊、袋綴装、「防陽多賀宮文庫」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、

（表紙見返）道春點附

平成三年八月二十一日　豊田尚子発見［511］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、「觸（フル）レ藩」「羸ニ其角一」ノ上欄ニ「クルシマ」トアルガ如シ、後表紙見返ニ「高橋主殿（花押）」ノ墨書アリ、

県図4　書経　二冊

江戸時代中期刊、袋綴装、印記ナシ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、刊記ナシ、

平成三年八月二十一日　豊田尚子発見［512］

○角筆ノ漢字、行間ニアリ、「西一方諸一侯」ノ右傍ニ角筆ニテ「三面」トアルナドナリ、

県図5　禮記　四冊

江戸時代初期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レナシ、

（跋文）羅山子道春
把筆于東武寓所夕顔巷

平成三年八月二十一日　岡野幸夫発見［513］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多シ、「近習」ノ上欄ニ「ヘヤノソキン（側近）」ト記スルガ如キ意訳アリ、

県図6　春秋左氏傳再刻　十五冊

江戸時代安永六年刊、袋綴装、朱印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、

（刊記）安永六年丁酉三月新刻

平成三年八月二十一日　豊田尚子発見［514］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ（第四冊・第五冊ニテ確認）、
県図7　禮記集註　二十冊
江戸時代寛文三年刊、袋綴装、「小山蔵書」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、
（刊記）寛文三癸卯年正月吉辰
烏丸通下立賣下町
野田庄右衛門板行
平成三年八月二十一日　藤田夏紀発見［515］
○第十一冊ノ表紙ニ角筆ノ仮名ラシキ書入レアリ、
県図8　春秋胡氏傳　一冊
江戸時代後期刊、袋綴装、「明倫館印」印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十一日　柚木靖史発見［516］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、裏表紙ニ「三春月」ノ墨書アリ、
県図9　春秋左氏傳　十二冊
江戸時代中期刊、袋綴装、「防陽多賀宮文庫」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十一日　柚木靖史発見［517］
○角筆ノ仮名、上欄ニアリ（第一冊カラ第五冊ニワタリ確認）、「捷菑」ノ上欄ニ「セツ」トアルナドナリ、
県図10　孝經　一冊
江戸時代宝暦十一年刊、袋綴装、「防陽多賀宮文庫」印アリ、訓点附刻ナシ、墨書書入レナシ、
（刊記）享保十七年　壬子仲冬朔旦
東都　紫芝園蔵板
寶暦十一年辛巳五月　日再刻
書肆　嵩山房　小林新兵衛發行
平成三年八月二十一日　藤田夏紀発見［518］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、「大宮司高橋攝津守新添」ノ朱書アリ、
県図11　大學（林家正本再刻　芝山後藤先生定本）　一冊
江戸時代後期刊、袋綴装、朱印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、
平成三年八月二十一日　岡野幸夫発見［519］
○角筆ノ仮名・漢字、上欄ニアリ、仮名ニハ平仮名ヲ用イタリ、裏表紙見返ニ「安部氏」ノ墨書アリ、
県図12　小學　一冊
江戸時代中期刊、袋綴装、「防陽多賀宮文庫」印アリ、訓点附刻、朱書書入レ、刊記ナシ、
（版心記）山崎嘉點
平成三年八月二十一日　豊田尚子発見［520］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、「齊」ノ上欄「シトシウ（↑ヒトシウ）」ノ訛音、「輒」（上欄「チヨヲ」）、「鄭子臧（上欄「テイノシソヲ」）、「晉侯」（上欄「シンコヲ」）ノ如ク長音ヲ「ヲ」デ表記スルナドアリ、
県図13　論語（後藤點）　四冊
江戸時代後期刊、袋綴装、墨印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十一日　豊田尚子発見［521］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、裏表紙ニ「有田蔵書」ノ墨書アリ、
県図14　大字改正論語（道春訓点）　三冊
江戸時代中期刊、袋綴装、朱印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記

ナシ、
平成三年八月二十一日　豊田尚子発見［522］
○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニ多クアリ、

県図15　中庸 全　一冊

江戸時代初期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、朱書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十一日　柚木靖史発見［523］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、「著亀」ノ右傍ニ「シキ」、上欄ニ「きき」トシ、又「広大」ノ如キ長音ノ短呼例アリ、

県図16　天保校正 中庸 道春點 全　全一冊

江戸時代後期刊、袋綴装、「河野藏書」印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、
平成三年八月二十一日　柚木靖史発見［524］
○角筆ノ仮名・漢字、上欄ニアリ、内表紙ニ「山口仁保中郷河野姓」ノ墨書アリ、

県図17　中庸 道春點　一冊

江戸時代初期刊、袋綴装、「防陽多賀宮文庫」印アリ、訓点附刻、朱書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十一日　柚木靖史発見［525］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、「愧」ナドノ例アリ、

県図18　鼇頭論語集註　七冊

江戸時代初期刊、袋綴装、墨印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、
平成三年八月二十一日　藤田夏紀発見［526］
○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニ多クアリ、「急」ナドノ例アリ、第一冊ノ内表紙ニ「安部氏」、後表紙見返ニ「安部蔵書」ノ墨書アリ、

県図19　孟子　四冊

江戸時代寛文十年刊、袋綴装、「防陽多賀宮文庫」印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、
（刊記）寛文庚戌夏日
書林 洛陽烏丸 積徳堂梓板
平成三年八月二十一日　豊田尚子発見［527］
○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニ多クアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、「耕稼陶漁」ノ上欄ニ「こかと」ノ長音ノ短呼例ナドアリ、

県図20　孟子　四冊

江戸時代元禄八年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、
（刊記）元禄第八乙亥年三月吉辰
雒陽書林正華堂改正
平成三年八月二十一日　岡野幸夫発見［528］
○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニ多クアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、「含蓄」（チ→キ）ノ訛音、「広土」「江」ノ如キ長音ノ短呼、「窮人」「舜宮」ナドノ例アリ、表紙中央ニ「片山鳳翩註入」ノ墨書、後表紙ニ「享保二年卯ノ四月吉日」（第一冊）、「安永五申ノ／寛延二己巳十一月三日」（第二冊）ノ墨書アリ、

県図21　孟子　四冊

江戸時代慶安三年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、朱書・墨書・白書書入レ、
（刊記）慶安三暦初春
書林余氏仝梓 新開板
平成三年八月二十一日　岡野幸夫発見［529］
○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニ多クアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、「雞豚」ニ「けとん」「けへとん」ノ仮名ノ例ナドアリ、第四冊ノ後表紙ニ「天明三卯暮春吉日」ノ墨書アリ、

県図22　篭頭孟子　六冊

江戸時代延寶二年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レ、

（刊記）延寳貳年仲夏穀旦

烏丸通二条上二町目

三木氏親信梓行

平成三年八月二十一日　柚木靖史発見［530］

○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、「公都子（コトシ）」「郊（コ）」「良貴（リョ）」ノオ段長音ノ短呼、「紂（チュウ）」（チ→キ）、「景（ケ）春」ノ例、「霄（正）」「残（ニ）」ノ例ナドアリ、

県図23　新刻校正小學句讀内篇　二冊

江戸時代後期刊、袋綴装、墨印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、

（版心記）有文閣蔵

平成三年八月二十一日　柚木靖史発見［531］

○角筆ノ仮名、上欄ニアリ（第一冊ヨリ確認）、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、

県図24　日本政記　十六冊

江戸時代文久元年刊、袋綴装、「藤山藏書」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、

（刊記）文久紀元辛酉歳十二月

頼又次郎蔵板

（版心記）頼氏正本

平成三年八月二十一日　藤田夏紀発見［532］

○角筆ノ仮名、上欄ニアリ（第一冊カラ第十冊ニ亘ッテ確認）、「鹿」ノ上欄「カタコ」ノ訓、「冗兵」（上欄「ジョ」）、「輯睦」（上欄「シュホク」）ノオ段長音ノ短呼例アリ、

県図25　評苑改正文選旁訓大全　九冊

江戸時代元禄十三年刊、袋綴装、「防陽多賀宮文庫」印アリ、訓点附刻、朱書・墨書書入レ、

（刊記）元禄十三歳

辰二月吉日華洛二條通衣棚角

風月勝左衛門

（版心記）風月板

平成三年八月二十一日　藤田夏紀発見［533］

○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニ多クアリ、角筆ノ月日「正二月廿九日」ガ巻五ノ巻末ニアリ、「誓符（セ）」「冀（コイネコ）」ノ訛音、「蒸徒（上）」「重畳（上）」「顚覆（天）」「睿（永）文」ノ如キ字音表記アリ、

県図26　魁本大字諸儒箋解古文真宝前集（内題）　三冊

江戸時代中期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、

平成三年八月二十一日　藤田夏紀発見［534］

○角筆ノ仮名、上欄ニアリ（第一冊ヨリ確認）、

県図27　新板改正古文真寶（後集）　二冊

江戸時代寛文九年刊、袋綴装、墨印アリ、訓点附刻、朱書・墨書書入レ、

（刊記）寛文九己酉年初冬吉辰

二條通玉屋町上村次郎衛門新刊

平成三年八月二十一日　藤田夏紀発見［535］

○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニ多クアリ、「擾」ノ上欄ニ「乱」、「樹間」ノ右傍ニ「シカン」（ジュ→ジ）、「醇酎」ノ右傍ニ「シン」（ジュン→ジン）、「趣舎」ノ右傍ニ「シ」（シュ→シ）ノ訛音ナドアリ、

県図28　孟子　一冊

江戸時代初期刊、袋綴装、朱印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記

県図22　鼇頭孟子　六冊
江戸時代延寶二年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レ、
（刊記）延寶貳年仲夏穀旦
烏丸通二条上二町目
三木氏親信梓行
平成三年八月二十一日　柚木靖史発見［530］
○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、「公都子（コトシ）」「郊（コ）」「良貴（リヨ）」ノオ段長音ノ短呼、「紂（チウ）」（チ→キ）、「景（ケ）春」ノ例、「霄（正）」「残（ニ）」ノ例ナドアリ、
県図23　新刻校正小學句讀内篇　二冊
江戸時代後期刊、袋綴装、墨印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、
（版心記）有文閣蔵
平成三年八月二十一日　柚木靖史発見［531］
○角筆ノ仮名、上欄ニアリ（第一冊ヨリ確認）、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、
県図24　日本政記　十六冊
江戸時代文久元年刊、袋綴装、「藤山藏書」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、
（刊記）文久紀元辛酉歳十二月
頼又次郎蔵板
（版心記）頼氏正本
平成三年八月二十一日　藤田夏紀発見［532］
○角筆ノ仮名、上欄ニアリ（第一冊カラ第十冊ニ亘ッテ確認）、「鹿」ノ上欄「カタコ」ノ訓、「冗兵」（上欄「ジョ」）、「輯睦」（上欄「シユホク」）ノオ段長音ノ短呼例アリ、
県図25　評苑改正文選旁訓大全　九冊
江戸時代元禄十三年刊、袋綴装、「防陽多賀宮文庫」印アリ、訓点附刻、朱書・墨書書入レ、
（刊記）元禄十三歳
辰二月吉日華洛二條通衣棚角
風月勝左衛門
（版心記）風月板
平成三年八月二十一日　藤田夏紀発見［533］
○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニ多クアリ、角筆ノ月日「正二月廿九日」ガ巻五ノ巻末ニアリ、「誓符（セ）」「冀（コイネコ）」ノ訛音、「蒸徒（ト）」「重畳（上）」「顚覆（天）」「睿文（ネ）」ノ如キ字音表記アリ、
県図26　魁本大字諸儒箋解古文真宝前集（内題）　三冊
江戸時代中期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、
平成三年八月二十一日　藤田夏紀発見［534］
○角筆ノ仮名、上欄ニアリ（第一冊ヨリ確認）、
県図27　新板改正古文真寶（後集）　二冊
江戸時代寛文九年刊、袋綴装、墨印アリ、訓点附刻、朱書・墨書書入レ、
（刊記）寛文九己酉年初冬吉辰
二條通玉屋町上村次郎衛門新刊
平成三年八月二十一日　藤田夏紀発見［535］
○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニ多クアリ、「援」ノ上欄ニ「乱」、「樹間」ノ右傍ニ「シカン」（ジュ→ジ）、「醇酎」ノ右傍ニ「シン」（ジュン→ジン）、「趣舎」ノ右傍ニ「シ」（シュ→シ）ノ訛音ナドアリ、
県図28　孟子　一冊
江戸時代初期刊、袋綴装、朱印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記

ナシ、
平成三年八月二十二日　岡野幸夫発見［536］
○角筆ノ仮名、行間ニアリ、「亥唐（ガイトウ）」「横逆（オウケキ）」「館（カンス）」ナドノ例アリ、
県図29　新刻改正孟子　再刻後藤點　一冊
江戸時代天保十一年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レナシ、
（刊記）天保十一年庚子孟春四刻
平成三年八月二十二日　岡野幸夫発見［537］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、「追蠡」ノ上欄ニ「犬イレイ」、「慕」ニ「シトヲ」ナドアリ、
県図30　孟子（内題）　一冊
江戸時代寛文五年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、朱書・墨書書入レ、
（刊記）寛文五年乙巳八月吉日
平成三年八月二十二日　岡野幸夫発見［538］
○角筆ノ仮名、行間等ニアリ、
県図31　音註釈義詩經下　一冊
江戸時代中期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、朱書・墨書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十二日　岡野幸夫発見［539］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、「懐顧（カイコ）」「焦穫（ショショウ）」ナドアリ、
県図32　改正大字古文真寶（後集）　一冊
江戸時代享保三年刊、袋綴装、「防陽多賀宮文庫」印アリ、他ニ墨印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、
（刊記）享保三年戊戌正月吉旦
五條橋通鹽竈町　北村四良兵衛板
平成三年八月二十二日　柚木靖史発見［540］
○角筆ノ仮名・漢字、上欄・行間ニ多クアリ、仮名ニハ平仮名ヲ用イル、「城郭甲兵」ヲ「定くわく、せいくわくこうへい」、「履（テ）ニ至尊（ヲ）」ヲ「しそんのふむ」、「掃（フ）ニ粃糠（ヲ）」ヲ「ひ孝はろを」ナドトアリ、
県図33　小學外篇　一冊
江戸時代延寶四年刊、袋綴装、「防陽多賀宮文庫」印アリ、訓点附刻、朱書・墨書書入レ、
（刊記）延寶四年丙辰沽洗　壽文堂板行
（版心記）山崎嘉點
平成三年八月二十二日　柚木靖史発見［541］
○角筆ノ仮名、行間ニ多クアリ、「縮（シシンテ）」ノ語、「畢竟（ヒッキョウ）」ノオ段長音ノ短呼例アリ、
県図34　古文真寶後集　一冊
江戸時代中期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、朱書・墨書・白書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十二日　柚木靖史発見［542］
○角筆ノ仮名、行間ニアリ、「静（シ）」「怪（アヤ）」ノ如ク部分訓ヲ施セルモノ多シ、巻末ニ「寛政三／亥菊月十六日／持主鐘蔵」ノ墨書アリ、
県図35　古文真寶後集　一冊
江戸時代貞享四年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、朱書・墨書書入レ、
（刊記）貞享四年丁卯仲春吉日
江戸日本橋南一町目
須原茂兵衛刊行
平成三年八月二十二日　柚木靖史発見［543］
○角筆ノ仮名、上欄・行間ニ多クアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、「湛然之域（ノニ）」ヲ「たんせんノヒキニ」、「慈（スルハ）ニ孤弱（ヲ）」ヲ「シヤクイツクシんスルハ」、「傅説」ヲ「ふへつ」トスルナドノ例アリ、
県図36　改正音訓詩經　再刻後藤點　一冊
江戸時代後期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、

（版心記）後藤點
平成三年八月二十二日　柚木靖史発見［544］
○角筆ノ仮名、行間ニアリ、「仇」（ダ→ザ）ノ訛音、「袍」ノオ段長音ノ短呼例アリ、後表紙見返ニ「戊八月吉日／安部氏」ノ墨書アリ、

県図37　孟子（内題）　二冊
江戸時代寛文二年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、朱書・墨書・白書書入レ、
（刊記）寛文二壬寅年
三月吉辰
平成三年八月二十二日　岡野幸夫発見［545］
○角筆ノ仮名、行間ニ多クアリ、「馮婦」（ヒ→シ）ノ訛音、「捂亡」「一妾」ノオ段長音ノ短呼、「佚道」「穿踰」ヤ、「踵」ノ「キ」ニ「ク」ヲ重書シテ「キビス」「クビス」ノ両語ヲ示セル例ナドアリ、

県図38　書經　道春點　二冊
江戸時代中期刊、袋綴装、「防陽多賀宮文庫」印アリ、訓点附刻、朱書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十二日　豊田尚子発見［546］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、後表紙見返ニ「高橋主殿（花押）」ノ墨書アリ、

県図39　大學章句　一冊
江戸時代初期刊、袋綴装、「防陽多賀宮文庫」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、刊記ナシ、
平成三年十月二十二日　豊田尚子発見［547］
○角筆ノ仮名、行間ニアリ、「帰趣」（シュ→シ）、「表章」（オ段長音ノ短呼）ナドアリ、巻末ニ「高橋主殿（花押）」ノ墨書アリ、

県図40　改訂音訓詩經　二冊
江戸時代後期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、
平成三年八月二十二日　豊田尚子発見［548］
○角筆ノ仮名、行中空白部ニアリ（第二冊ヨリ確認）、後表紙見返ニ「石川姓」ノ墨書アリ、

県図41　晉書　十九冊
江戸時代元禄十五年刊、袋綴装、「昭和一八年一月二二日上田源太郎寄贈」印アリ、訓点附刻、朱書書入レ、
（跋）右正誤凡二十三　荻生茂卿謹識
（版心記）元禄壬午年　松會堂
平成三年八月二十二日　豊田尚子発見［549］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ、「蛔」ノ上欄ニ「カイ」トアル（第三冊）ナドナリ、第八冊（晋書九、三十六丁裏）ニ角筆ニテ「先生万歳治右衛門久隆」ノ文字アリ、

県図42　大字改正孟子　道春訓点　二冊
江戸時代中期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十二日　豊田尚子発見［550］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、第二冊ノ後表紙見返ニ「本安」ノ墨書アリ、

県図43　論語　三冊
江戸時代初期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、朱書・墨書・白書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十二日　豊田尚子発見［551］
○角筆ノ仮名・漢字、行間・上欄ニ多クアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、「奢」ナド、「成功」ノ短音化ノ例アリ、後表紙見返ニ「安部蓑槌」ノ墨書アリ、

県図44　古文真寶後集　二冊
江戸時代中期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、朱書・墨書書入レ、刊記ナシ、
平成三年八月二十二日　豊田尚子発見［552］
○角筆ノ仮名、行間ニ多クアリ（第一冊ヨリ確認）、「飲燕（イン→ネン）」（エンネン）ノ連声ノ例アリ、第二冊後表紙ニ「奈良屋藤之丞」ノ墨書アリ、

県図45　易經（再刻後藤點）　二冊
江戸時代後期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、
平成三年八月二十二日　柚木靖史発見［553］
○角筆ノ漢字、上欄ニアリ、「帷」「與」ナドナリ、第一冊ニ「張氏／張令読」ノ墨書アリ、

県図46　國史略　五冊
江戸時代文政九年刊、袋綴装、浅山吾三氏寄贈、朱印二顆アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、
（刊記）文政丙戌季冬刻成
（版心記）文政新刻　巖垣東園先生編國史畧　五車樓梓
平成三年十月四日　岡野幸夫発見［600］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニアリ（第一冊ヨリ確認）、

県図47　（校正改刻）世説新語補　九冊
江戸時代中期刊、袋綴装、朱印二顆アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、刊記ナシ、
（跋文）重刻世説新語補跋／（十八行略）／皇和安永己亥正月守山碕允／明謹謨
平成三年十月四日　岡野幸夫発見［601］
○角筆ノ仮名、行間ニ多クアリ、

県図48　（改訂音訓）中庸　一冊
江戸時代後期刊、袋綴装、明倫館版、「河野蔵書」印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、
（版心記）明倫館蔵
平成三年十月五日　豊田尚子発見［602］
○角筆ノ仮名、上欄ニアリ（十八丁裏、十九丁表ヨリ確認）、他ニ角筆ノ線アリ、表紙見返ニ「河野蔵（朱印）」ノ墨書アリ、

県図49　（新版改正）大學（後藤點）、中庸、孟子（一）～（四）、論語（一）～（四）　十冊
江戸時代嘉永六年刊、袋綴装、「大正七年四月廿五日」、「歩兵教授宣章」印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、
（版心記）後藤點
（刊記）嘉永五年壬子臘月朔旦御免上梓
嘉永六年癸丑仲春吉旦　發兌
平成三年十月五日　豊田尚子発見［603］
○角筆ノ仮名、行間・上欄等ニ多クアリ、第十冊表紙見返ニ角筆ノ文字アリ、

県図50　孝經　一冊
江戸時代後期刊、袋綴装、明倫館版、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、刊記ナシ、
（版心記）明倫館蔵
平成三年十月五日　豊田尚子発見［604］
○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニアリ、表紙見返ニ「鈴木彌之助」「鈴木多吉」ノ墨書アリ、

県図51　古文眞寶（後集）　一冊
江戸時代中期刊、袋綴装、浅山吾三氏寄贈、朱印・墨印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、刊記ナシ、

平成三年十月四日　柚木靖史発見［605］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、

県図52　古文眞寶前集　一冊
江戸時代初期刊、袋綴装、浅山吾三氏寄贈、朱印アリ、訓点附刻、朱書・墨書・薄青書書入レ、刊記ナシ、
平成三年十月四日　柚木靖史発見［606］
○角筆ノ仮名、行間ニアリ、「天保七丙申秋九月／長州城京／長嶺什物」ノ墨書アリ、

県図53　嘉永補刻正續文章軌範評林　六冊
江戸時代嘉永四年刊、袋綴装、「古川氏印」「藤原永久」印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、
（刊記）嘉永四年辛亥冬補刻
（版心記）「津鎮雄書」（第四冊巻之二最終丁）、「壁正則書」（第五冊巻之四最終丁、第六冊巻之五・七ノ最終丁）、「卯銀谷書」（第六冊巻之六最終丁）
平成三年十月五日　柚木靖史発見［607］
○角筆ノ漢字・仮名、上欄・行間ニアリ、

県図54　詩經集註　八冊
江戸時代中期刊、袋綴装、上田源太郎氏寄贈、「小山蔵書」印アリ、訓点附刻、墨書・朱書入レ、刊記ナシ、
平成三年十二月十五日　白井大介発見［629］
○角筆ノ仮名、行間ニアリ（第一冊ヨリ確認）、角筆ノ線アリ（第二冊ヨリ確認）、

県図55　道春點論語　二冊
江戸時代中期刊、袋綴装、墨印アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、刊記ナシ
平成四年二月二日　豊田尚子発見［643］
○角筆ノ仮名、行間ニアリ、仮名ニハ平仮名ヲ交エル、後表紙見返ニ「寛延庚午之五月廿日／長井姓／三河（花押）」ノ墨書アリ、

県図56　大學（内題）　一冊
江戸時代安政二年刊、袋綴装、明倫館版、「周防國明倫館図書印」印アリ、訓点附刻ナシ、墨書書入レナシ、刊記ナシ、
（版心記）明倫館蔵
（刊記）安政乙卯新鐫／明倫館蔵版
平成四年二月十九日　豊田尚子発見［644］
○角筆ノ漢字・線・印アリ、

県図57　書經上後藤點　一冊
江戸時代後期刊、袋綴装、「明倫館印」印アリ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、
（版心記）後藤點
平成四年二月二十日　豊田尚子発見［645］
○角筆ノ仮名、主ニ上欄ニアリ、

県図58　鼇頭近思録　十四冊
江戸時代延宝六年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、朱書書入レ、
（刊記）柳馬場通押小路上ル町　吉野屋権兵衛刊行
延宝六年戊午二月吉辰
大坂高麗橋西壹町目　吉野屋五兵衛刊行
平成三年二月六日　小林芳規発見［422］
○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、「偃柔厭飫（オウヘン）」「蕩（トウヂ）」「蕩（トウテ）」ナドアリ、

県図59　小学白文　二冊
江戸時代寛政十一年刊、袋綴装、「周防國明倫館図書印」「楊井家蔵」印アリ、訓点附刻、
平成三年二月六日　小林芳規発見［423］
○角筆ノ仮名、上欄ニアリ、

禅昌寺蔵本　8点（禅1～禅8）　53冊

禅1　改訂音訓孟子　四冊

江戸時代後期刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レ、刊記ナシ、

（版心記）明倫館蔵

（第一冊、後表紙）周南偶客／波羅陀蔵書／（擦消）／圓通院

平成三年九月二十五日　岩川直子発見［558］

○角筆ノ仮名、行間・上欄ニ多クアリ、角筆ノ漢字「八月終」「原田姓」トアリ、角筆ノ仮名ニハ「徐辟」ヲ「ジョシ」トスル訛アリ、「長幼（ヨオ）」、「ショオ（「餉」ノ上欄）」「妾婦（シヨウフ）」ナドアリ、

禅2　淮南鴻烈解　十三冊

江戸時代寛文四年刊、袋綴装、朱印アリ、訓点附刻、墨書書入レナシ、

（刊記）寛文甲辰孟陬之月

洛下　逋客　石齋鵜子直訓點

寺町　書林　前川権兵衛印行

平成三年九月二十五日　岩川直子発見［559］

○第十冊、十七丁裏～十八丁表ノ上欄外ニ角筆ノ漢字「困」ヲ習字風ニ八字書ケリ、

禅3　改正新板首楞嚴義疏注経　十冊

江戸時代天和三年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻・墨書・朱書書入レ、

（刊記）天和三年癸亥上冬望日／書肆伊藤五郎兵衛壽梓

平成三年九月二十五日　柚木靖史発見［560］

○角筆ノ漢字・仮名ニヨル注文多シ、「智論」ニツイテ角筆ニテ「一巻」ト注シ、「復二相自相陵奪（ハヲヒトモ）」ノ上欄ニ角筆ニテ「訓文ニハ心也」ト注スルナドアリ、

禅4　禅儀外文　一冊

江戸時代寛永十年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、

（刊記）寛永癸未九月吉祥日

二條通玉屋町村上平楽寺　開板

平成三年九月二十五日　岩川直子発見［561］

○角筆ノ仮名及ビ漢字ノ書入レ殆ド各頁ニアリ、「聊爾（リウ・ヤ）」「健（スクヤカナルヲ）」「其華」「由来（ユウ）」「双経（ケイ）」「裨販（タテノフリウ）」ナドアリ、又「此人（ツタ）」ノ注ニ角筆ニテ「此抄非也此（キン）師ヲ俗美シク」トアリ、

禅5　支那撰述法華要解　五冊

江戸時代初期刊、袋綴装、朱印一顆・黒印二顆アリ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、刊記ナシ、

（表紙見返）（各冊）黙

（裏表紙遊紙）（各冊）岸呂村

（第一冊ノミ）柴法寺

平成三年九月二十五日　柚木靖史発見［562］

○角筆ノ仮名ノ訓点、全冊ニワタリ多シ、「忖（チキリツ、）」「忖（ハカル）」「洽（ウルヲ（ヒ））」「翫（クワン）好」ナドアリ、

禅6　科注妙法蓮華経　九冊

江戸時代元禄三年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書書入レ、

（刊記）元禄三辛未年文月下絃

大阪平野町梅檀木／灰屋三良右衛門

平成三年九月二十五日　柚木靖史発見［563］

○角筆ノ仮名ト漢字、一箇所アリ、他ニ符号多シ、

禅7　維摩経　十冊

江戸時代寛永十八年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、

（刊記）寛永十八辛巳季秋／吉旦書梓中野道也

平成三年十二月十一日　岩城裕之発見［640］

○角筆ノ仮名ト漢字句アリ、仮名ハ「妓女（アイヒメ）」ナドアリ、漢字句ハ本

文「群生」ニ角筆ニテ「一切衆生」ト傍書シ、「宝蓋」ニ角筆ニテ「三千世界」ト傍書スルナドノ注解ヲ示セリ、

禅8　齋別受八戒作法（内題）　一冊

江戸時代延寶九年刊、袋綴装、印ナシ、訓点附刻、墨書・朱書書入レ、

（刊記）延寶九辛酉年季春下澣日
烏丸通岡部源兵衛　柳馬場村井九良兵衛

平成三年十二月十一日　岩城裕之発見［641］

○角筆ノ片仮名ノ訓点アリ、

乗福寺蔵本　4点（乗1～乗4）　4冊

乗1　多々良氏譜牒外覚書　一冊

江戸時代中期写、袋綴装、印ナシ、墨書・朱書書入レ、奥書ナシ、

平成三年九月二十一日　柚木靖史発見［554］

○角筆ノ漢字ニテ「牟大隆」ト注セリ、ソノ上ニ、朱書ニテ「牟大隆」ト重書ス、

乗2　乗福寺記録　一冊

江戸時代中期写、袋綴装、印ナシ、墨書・朱書書入レ、奥書ナシ、

平成三年九月二十一日　栾竹民発見［555］

○本文墨書「二世」ノ左傍ニ、角筆ニテ、漢字ト覚シキ「二」アリ、

乗3　琳聖大子宝剣来由　一冊

江戸時代後期写、袋綴装、印ナシ、墨書書入レ、

（奥書）南明山主碩門叟拝撰

平成三年九月二十一日　栾竹民発見［556］

○巻末ノ宝剣図ノ下絵トシテ、角筆ノ凹ミヲ用イタリ、

乗4　南明山薬如來來由記（内題）　一冊

江戸時代中期写、袋綴装、印ナシ、墨書書入レ、奥書ナシ、

平成三年九月二十一日　栾竹民発見［557］

○角筆ニテ、訂正符、補入符ト思シキ線アリ、

龍蔵寺蔵本　1点（一巻）

龍1　蘇悉地羯羅供養法巻上　一巻

平安中期書写、寛平法皇加点、巻子本、楮交リ斐紙、巻首虫損、墨界、一行十七字（但シ十六字ノ所モアリ）、角筆点（仮名、ヲコト点・慈覚大師点、平安中期）、朱点（ヲコト点ノウチノ星点ノミ、角筆点ノ上カラナゾル）、表紙欠、天地二七・四糎、界高二〇・八糎、界幅二・〇乃至二・二糎、一紙長五五・三糎、二十紙、尾題ナシ、奥書ナシ、

（内題）□（蘇悉）悉地羯羅供養法巻上

○角筆ノ仮名・漢字トヲコト点、全巻ニ施サレ、全文ノ訓読可能ナリ、ヲコト点ハ慈覚大師点、仮名字体ハ東山御文庫蔵周易抄、東寺観智院金剛蔵胎蔵秘密略大軌、同蔵胎蔵略述、同蔵三親王灌頂時儀式（昼作法）、高野山大学図書館蔵胎蔵秘密略大軌、随心院蔵無畏三蔵禅要（以上、平安中期書写本）ノ仮名字体ト完全ニ一致シ、寛平法皇ノ加点ト見ラル、ア行ノ「衣」トヤ行ノ「エ」トヲ区別シ、平安中期十世紀前半期ノ加点ナルコトガ証セラル、